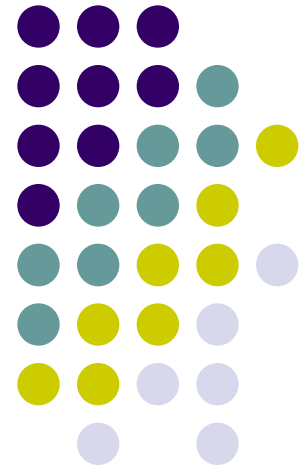


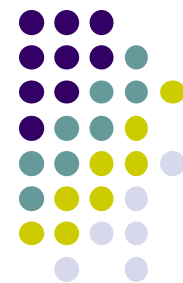
岸和田 Green Village 構想

平成26年2月

岸和田丘陵地区まちづくり協議会
岸和田市



岸和田 Green Village 構想とは



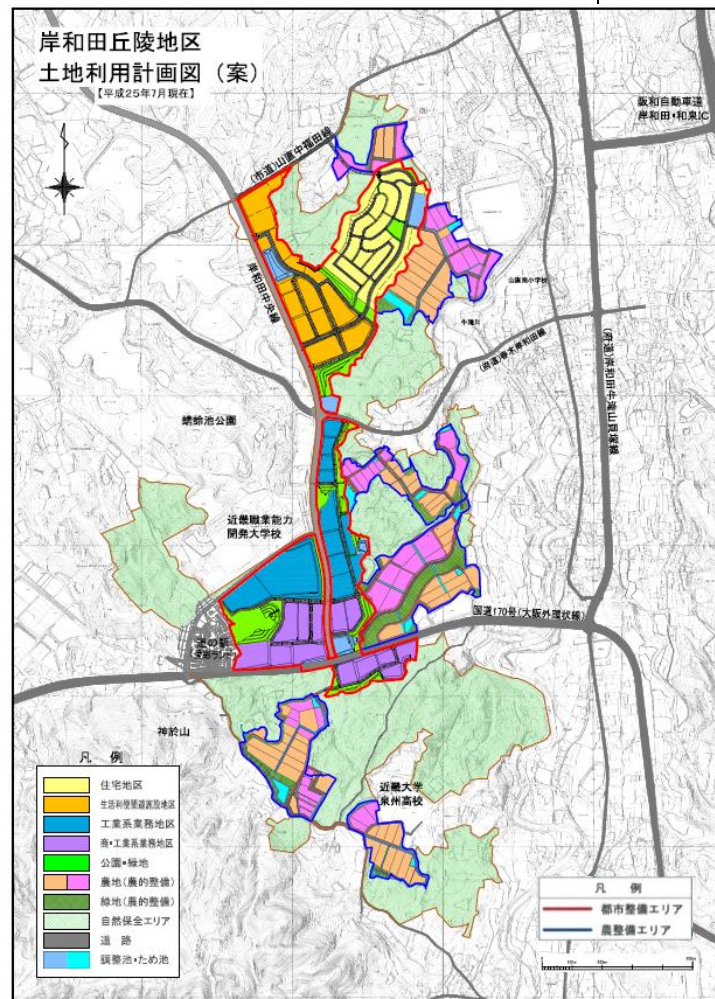
◇岸和田丘陵地区で計画中の「都市」、「農」、「自然」が融合したまちづくりのうち、「新たに取り組む先進的プロジェクト」の総称が、岸和田GreenVillage構想です



岸和田丘陵地区の取組み



1. 「都市整備エリア」(約44ha)
土地区画整理事業(組合施行)
⇒26年度事業認可
2. 「農的整備エリア」(約34ha)
大阪府営土地改良事業
⇒25年度事業認可
3. 「自然活用エリア」
⇒里山再生など
4. 「愛彩ランド」
⇒農産物直売所、交流施設など



これらの事業をベースに多様な取り組みを展開

岸和田 Green Village 構想

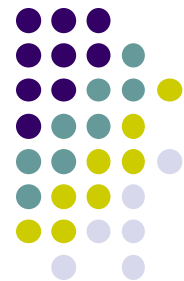


- ◇ **新たな時代を先導し全国に誇れるまちづくりに向けて、「暮らし」、「学び」、「働き」、「楽しむ」など、生活の全てのステージに、キラリと光る新たな仕組みを導入**
- ◇ **「農」、「自然」をいかし、“あふれる魅力”と“みなぎる活力”を創造**

【キーワード】

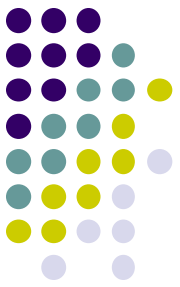
- **徹底した環境との調和、自然資源の活用、生態系の確保**
- **地域や企業、子どもから高齢者まで、多様なプレイヤーの活躍**
- **「農」と「自然」を活かしたあらたなビジネスモデルの創出**

7つのプロジェクト展開



- 1 スローライフ実現プロジェクト
- 2 フードバレー形成プロジェクト
- 3 フクロウの森再生プロジェクト
- 4 高齢者かがやきプロジェクト
- 5 次世代のびのびプロジェクト
- 6 竹資源活用プロジェクト
- 7 神於山からの息吹プロジェクト





1. スローライフ実現プロジェクト

- ◇農体験・自然体験の機会が充実し、地元産の新鮮で安心な農産物が手軽に入手できるほか、自然素材を取り入れたゆとりの住まいを提供するなど、豊かなみどりに包まれ、ゆったりとした時間の流れの中で、仲間とともに、エコでスローな暮らしを満喫する。そうしたライフスタイルを実現します。



1. スローライフ実現プロジェクト

◎日帰り型の「里山クライנגルテン」の整備

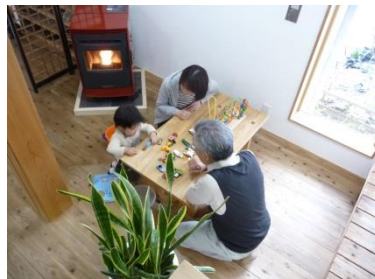
- ⇒農と自然と都市が融合する地域の特色を活かす
- ⇒景観・環境への配慮、高いサービス水準

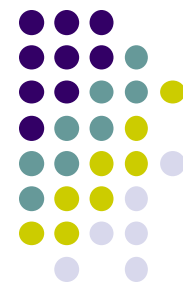
◎農園つきエコ住宅の販売

- ⇒住宅メーカーと連携
- ⇒竹合板など地元産素材を活用

◎ペレットストーブの利用促進

◎ツリーハウスづくりなどのコミュニティ活動





2 フードバレー形成プロジェクト

◇新たな成長産業として、力強い農業を実現するため、実需者との連携を強化し、消費と連動した農業経営を実現するとともに、若年層の就農や、法人の農業参画などを進めます。また、新たな特産品開発など地産地消の取り組みを一層充実するとともに、福祉や医療分野との連携を進めます。

さらに、農産物や加工品、体験活動も含めて、農の魅力を最大限に発揮し、「農と食なら岸和田」といっていただけるような取り組みを進めます。

2 フードバレー形成プロジェクト



◎次世代施設園芸コンソーシアムの設立

- ⇒企業・実需者・JA・行政・研究機関との連携強化。消費と生産の連動
- ⇒環境制御システムや病虫害防除など最先端農業技術をフル活用
- ⇒木質バイオマスなどグリーンエネルギーを積極導入



◎新たな担い手の育成

- ⇒農業大学校やJAファームと連携した農業版OJTシステムの導入
- ⇒初期投資軽減のための農業ハウスリース制度の導入



◎農福連携(障がい者雇用)、医農連携の推進

- ⇒先行事例(ヒューマンアグリ)を活かした取組み推進



◎企業との連携で地産地消のさらなる推進

- ⇒愛彩ランドを核とした取組みの充実
- ⇒企業のイベント協賛で食育や地産地消



◎「マイワイン」など多様な農業参画の推進

◎新たなブランド開発、六次産業化の推進

岸和田丘陵地区フードバレー計画概要

■基本方針

- ◇都市農業の強みを生かした多様な農業経営の展開
- 1. **実需者、民間企業と連携した生鮮野菜の供給・加工・流通基地の形成**
- 2. JAファームと連携した農業版OJTや契約栽培など経営安定化の取組みを通じた**青年就農者の育成**
- 3. 府内最大級の農産物直売所「**愛彩ランド**」を核とした**地産地消の推進**
- 4. 教育現場と連携した**生涯学習としての食農教育**の充実
- 5. 高齢化社会に適合するための「**農を通じた生きがいづくり、就労の場づくり**」
- 6. 水なす、桃、いちじくなど岸和田ブランドを活かした**6次産業化の推進**
- 7. エネルギー化、堆肥化をはじめ、プラスチック化、製紙化など地域の**竹資源を活用した取組み**の推進
- ◇これらを通じて、「農」「自然」「都市」が融合するまちづくりを実現

食と農の生涯学習の推進

- ◇生きがいコミュニティ農園整備



- ◇民間企業と連携した食農教育・農と福祉・医療との連携



- ◇中学校給食センターの整備
・食農教育の推進
・地産地消の取り組み



地産地消の更なる推進

- ◇農産物直売所「**愛彩ランド**」充実



- ◇直売所出荷農家の育成



6次産業化に向けた生産体制の強化

- ◇担い手農家による水なす、桃の生産強化
- ◇加工品開発の推進



農あるエコライフの推進

- ◇里山再生、ペレットストーブの導入、マルシェなど



- ◇木質バイオマスエネルギー供給センター
・農業施設、工業用ボイラーの熱供給
・チップ化・ペレット化施設



新たな担い手の確保

- 中間管理機構による農地集約

- 農業ハウスリース制度の創設

- 農業生産法人と連携した、農業版OJT



次世代施設園芸拠点（フードバレー）の形成

- ◇種苗センターの充実（JAいずみのなど）



- ◇水耕による軟弱野菜（青年農業者）：3 ha
・農業用ハウスのリース制度の創設
・スーパー等実需者との契約栽培



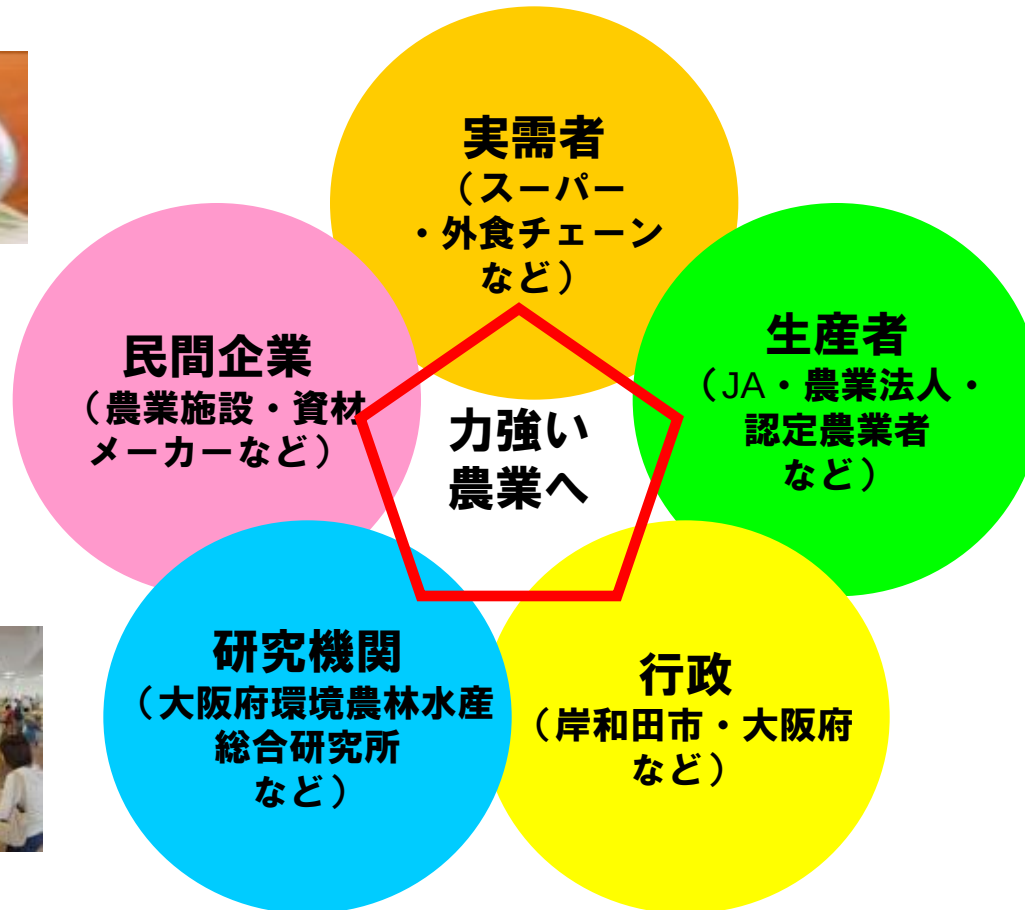
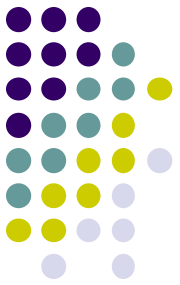
- ◇野菜パッキングセンター（食品メーカー）
・高齢者の雇用の場の確保

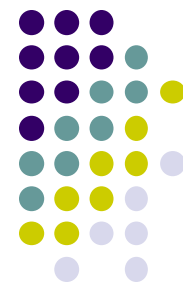


- ◇企業参入によるトマト栽培（農業法人）：7 ha
・実需者みずから農業参入



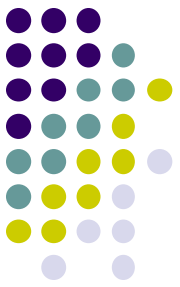
フードバレーコンソーシアムのイメージ



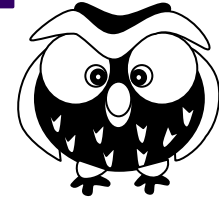


3 フクロウの森再生プロジェクト

◇エリア内で営巣するフクロウをシンボルに、里山の保全や、植樹活動、水辺づくりなど、豊かな生態系を再生する取組みを、市民・地域みなさんや企業みなさんと一緒に進めます。さらに、ひまわりの咲く光景が地域の風物ともなるような、シンボリックな取組みを進めます。



3 フクロウの森再生プロジェクト



◎アドプトフォレスト制度との連携

⇒企業・市民による里山再生を推進。竹の伐採から、広葉樹の植樹、湿地復元など多様な取組みを展開。多様な交流の場を提供

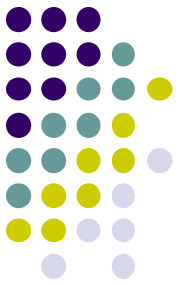
◎里山ビジネスの創出

⇒伐採木を活用した名刺や竹炭販売など

◎ひまわりファームの復活

◎まちづくり協議会の活動支援





4 高齢者かがやきプロジェクト

◇高齢のみなさんが、きらきらと輝き、まさに「プラチナエイジ」と呼ばれるよう、健康的で安心な暮らしの提供、ゆとりある生活の実現、いきがいとやりがいの創造に向けた取り組みを進めます

4 高齢者ががやきプロジェクト



◎プラチナエイジ・コミュニティ農園の開設

◎フレキシブルジョブシステムの導入

⇒「1日2・3時間」を中心とした雇用機会の確保(収穫やパックづめなど)

◎出前直売所システムの試行

⇒企業連携によりオンデマンドで直売所産品を自宅に届けるシステムを試行

◎健康安心野菜(低カリウム)の産地化



・カリウムは野菜、果物などに多く含まれ、人体に不可欠。
・約90%が尿から排出されるが、慢性腎臓病患者は腎機能低下が進むと体内のカリウムを十分に排出することが出来ない。

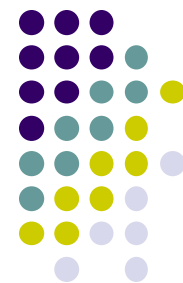
↓

・カリウムの血中濃度が高くなり、不整脈により心不全を起こす可能性。

↓

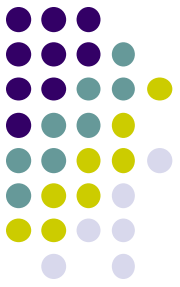
・治療法として主に厳しい食事療法。
・カリウム制限が必要な腎臓病患者は約1000万人いると報告。





5 次世代のびのびプロジェクト

◇次世代を担う子どもたちが、夢にむかって、健やかに成長し、のびのびと学び、豊かな心をはぐくむよう、農業体験など「農」と「食」を通じた食農学習の取組みを進めるとともに、世代を超えた取組みへと広がっていきます。



5 次世代のびのびプロジェクト

◎オール岸和田ブランド化で地産地消

- ⇒岸和田ブランドのエコ農産物、岸和田竹のバイオプラスチック食器。
調理は、木質バイオマスボイラ、残さは、堆肥として農地に還元。

◎バイオプラスティック食器の導入

◎食と農の生涯学習の推進

- ⇒農業体験活動の充実
- ⇒食品メーカーと連携した食農学習講座

◎丘陵ファンクラブの設立



6 竹資源活用プロジェクト

(岸和田バンブープロジェクト)



◇エリア内に繁茂した竹を単に処分するのではなく、「ピンチをチャンスに」の発想で、エネルギー化やプラスチックなどの製品化はもとより、アート素材として地域の魅力づくりに活用するなど、多様な活用を図るとともに、その活用プロセスを通じ、農産物の質の向上や、企業のビジネスチャンスの拡大を図ります。

6 竹資源活用プロジェクト

(岸和田バンブープロジェクト)



◎竹パウダーによる農産物の品質向上

⇒果樹・野菜の糖度向上



◎竹ペレット化によるエネルギーの地産地消

⇒工場・農業ハウス・温泉ボイラ・ペレットストーブなど多様な熱源利用

◎エコ住宅への竹合板の活用

⇒住宅メーカーとの連携を促進



◎竹を利用したバイオプラスチック製品の製作

⇒市場流通の可能性を検討



◎竹紙の利用推進

⇒市役所の封筒やポスター、竹紙名刺などとして率先利用。



◎竹アートや竹炭など多様な竹資源活用



竹資源の活用イメージ



伐採・搬出



供給

製品化



竹パウダー



活用

販売

多様な活用

農業利用



熱源利用



プラスチック

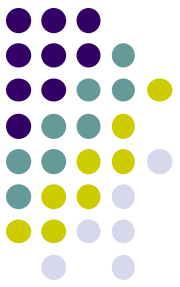


竹紙



竹合板





竹資源活用プロジェクトのPR戦略

◎シンボルロゴマークによるPR

- ・封筒や印刷物、ホームページへの掲示
- ・名刺への掲示、各種竹製品への掲示 など



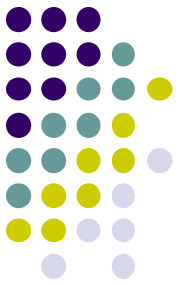
【バンブープロジェクト】

「ひと」「農業」「商工業」そして「自然」の各ステージに竹が資源循環することで、キラリと光る活力の輝きを放っていくことをイメージして作成されたものです。

◎多様なイベント開催

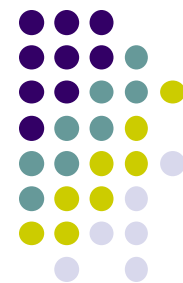
- ・紀州街道での灯籠まつり
- ・フクロウの森づくりイベントやくらすなら岸和田フェアでのPR
- ・愛彩ランドでのペレットストーブ設置 など

◎竹製品の普及を通じたPR



7 神於山からの息吹プロジェクト

◇神於山からの「緑」や「水」とのつながりを享受して、その息吹から季節を感じ、地区全体が一体感を生み成長していくまちづくりを推進します。里山のシンボルとなる「フクロウ」を通じて賑わいを創出し、社会貢献や企業イメージの向上に寄与するとともに自慢できるまちづくりを応援します。



7 神於山からの息吹プロジェクト

◎郷土種をふんだんの取り入れたまちづくり

⇒神於山との調和を図る里山計画の推進



◎地区全体でアドプト活動

⇒緑のアドプト(剪定、花畑)や水のアドプト(水路掃除、ザリガニ取り)など

◎湧き水を活用した資源づくり



◎地区の賑わいの場で感謝祭や野外コンサート

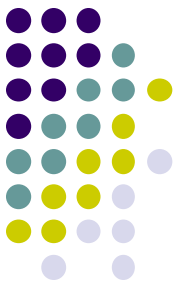
⇒春夏秋冬の季節に合わせて感謝祭を町全体で開催。自然に感謝

◎里山の象徴「フクロウ」を地区全体で育む取組



⇒植栽に巣箱の設置や、表札、看板等にフクロウを表示するなどシンボル化

◎神於山からの「緑」「水」「風」を地区内で享受し、「海」へと繋ぐ



取り組みにあたって

◇取り組みにあたっては、岸和田市が「旗振り役」を精一杯つとめるとともに、大勢のみなさんにプレーヤーとして取り組みに参画していただくことが重要です。このため、

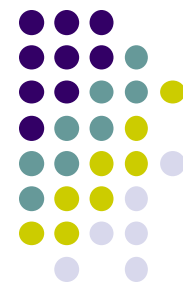
地域のみなさん

市民のみなさん

農業関係のみなさん

企業、法人、NPO

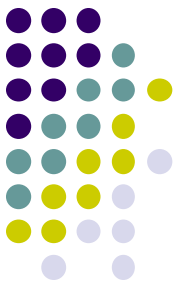
大阪府、国などと協働の取り組みを進めるとともに、こどもたちからお年寄りまで、だれもが参画できる機会を提供します。みなさんとともに、一步ずつ実現に取り組みます。



企業さまとの連携にあたって

◇なかでも、企業さまとの連携にあたっては、少しでもメリットを感じていただけるよう、行政も最大限努力します

- ・企業ロゴの露出
- ・製品の需要拡大
- ・プレスへの発信
- ・行政の率先利用
- ・地域団体との連携
- ・支援制度の創設 など



更なる展開イメージ

◇この構想は、取り組みの熟度や新たなご提案に応じて、日々、進化させていきます。また、本構想を内外へと広くアピールし、多くのみなさんにご賛同をいただくため、PR活動を強化します

- ・マスコミへの情報提供の強化
- ・行政関係のシンボルプロジェクトやイベントへの参画
 - 御堂筋Kappo、みどりと風の月間、おおさか山の日など
- ・民間企業とのコラボレーションの推進
 - 住宅メーカーや食品メーカーの販促活動との連携
- ・各種イベントの展開
 - くらすなら岸和田フェア、食べるなら岸和田フェアなど